

■2024年7月28日(日)【デジタル・ヒューマニティーズに関する国際シンポジウム】

- タイトル：「人文知と情報知の接合—デジタル・ヒューマニティーズの可能性と課題」
- 日時：令和6年7月28日(日) 10:30-16:30
- 会場：国際日本文化研究センター 第1共同研究室及びオンライン配信 (Zoom ウェビナー)
日本語/韓国語同時通訳あり
- 主催：国際日本文化研究センター、高麗大学校文科大学
- 共催：Digital-HUSS コンソーシアム、「国際日本研究」コンソーシアム
- 概要：

人文科学の研究においてデジタル技術の活用は大きな課題となっている。ビッグデータの収集・分析が人文学研究にもたらしうる新たな視点が言語学・文学・歴史学・社会学など分野を問わず模索されている。その一方で、デジタルツールへの過度な依存が、伝統的な人文学的スキルにとって有益なのかどうかについては研究者の意見は分かれるだろう。情報学・文学・歴史学・言語学などの諸分野の研究者がそれぞれの問題関心にしがって行う発表を通じて、本シンポジウムをデジタル・ヒューマニティーズの可能性と課題を考える場としたい。

○ プログラム：

総合司会：松田 利彦 (国際日本文化研究センター 副所長)

(第一部) 司会： 松田 利彦

10:30 開催挨拶 井上 章一 (国際日本文化研究センター 所長)

李 相雨 (高麗大学校文科大学 学長)

10:40 趣旨説明 松田 利彦 (国際日本文化研究センター 副所長)

10:45 発表1 鄭 炳浩 (高麗大学校日語日文学科 教授)

「「研究論文のデータベース」から見る韓国における日本文学の研究動向と主題分析」

11:15 発表2 山田 奨治 (国際日本文化研究センター 教授)

「デジタル人文学のアポリア—人文知と情報知のはざままで」

11:45 コメント コメンテーター 林 濬哲 (高麗大学校漢文学科 教授)

コメンテーター 関野 樹 (国際日本文化研究センター 教授)

12:05 休憩

(第二部) 司会： 安藤 千穂子 (国際日本文化研究センター プロジェクト研究員)

13:00 発表3 松田 利彦 (国際日本文化研究センター 教授)

「明治期日本における軍医と学歴—『陸軍現役将校及同相当官実役停年名簿』の数量的分析を中心に」

13:30 発表4 吉賀 夏子 (大阪大学大学院人文学研究科准教授/大阪大学グローバル日本学教育研究拠点 (デジタル日本学部門) 兼任教員)

「江戸期の地域資料をつなぐ周辺情報の収集と共有」

14:00 コメント コメンテーター 金 秀漢 (高麗大学校社会学科 教授)

コメンテーター フレデリック クレインス (国際日本文化研究センター 教授)

14:20 休憩

(第三部) 司会： 巖 仁卿 (高麗大学校グローバル日本研究院教授、国際日本文化研究センター外国人研究員)

14:35 発表5 宋 相憲 (高麗大学校言語学科 副教授)

「AIによる韓国語発話の社会的要因の検出 (AI-based Detection of Social Registers in Korean Utterances)」

- 15：05 発表6 鄭 恵允（高麗大学校西語西文学科 助教授）
「スペイン語パブリックスピーチの定量的文体分析（Stylometric Analysis of Spanish Public Speeches）」
- 15：35 コメント コメントーター 巖 泰雄（高麗大学校国語国文学科 副教授）
コメントーター 太田 奈名子（国際日本文化研究センター 准教授）
- 15：55 総合討論
- 16：25 閉会挨拶 鄭 炳浩（高麗大学校・Digital-HUSS コンソーシアム団長）
- 16：30 終了